

東北地方 1か月予報

(1月10日から2月9日までの天候見通し)

平成16年1月9日
仙台管区気象台発表

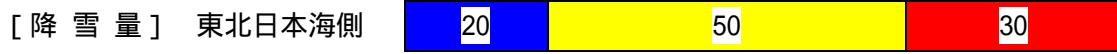
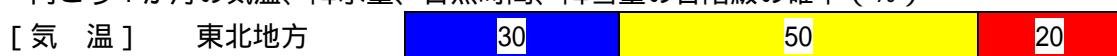
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の実現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。
冬型の気圧配置が続くでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、
東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、東北日本海側の降雪量は共に平年並でしょう。

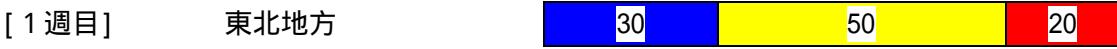
週別の気温は、1週目、2週目、3～4週目共に平年並の見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 1月10日(土)～2月9日(月)

1週目 : 1月10日(土)～1月16日(金)

2週目 : 1月17日(土)～1月23日(金)

3～4週目 : 1月24日(土)～2月6日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は1月16日

3か月予報:1月22日(木) 14時00分

暖候期予報:2月25日(水) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	降雪量(cm)	気温()		
					1週目	2週目	3~4週目
大船渡	0.4	47.7	153.9	23	0.9	0.4	0.2
新庄	-1.5	177.0	46.4		-1.3	-1.6	-1.7
若松	-0.9	78.0	88.6	137	-0.6	-1.0	-1.1
深浦	-0.7	89.1	35.1	81	-0.1	-0.7	-1.0
青森	-1.7	148.0	61.6	286	-1.2	-1.7	-1.9
むつ	-1.9	91.9	82.2		-1.3	-1.8	-2.2
八戸	-1.4	52.9	138.1	47	-0.9	-1.4	-1.7
秋田	-0.4	106.9	51.0	101	0.1	-0.4	-0.6
盛岡	-2.3	51.1	131.6	62	-2.0	-2.4	-2.5
宮古	-0.1	62.6	167.1	36	0.4	-0.1	-0.4
酒田	1.1	142.5	44.7	89	1.6	1.1	0.8
山形	-0.8	76.2	94.6	117	-0.4	-0.8	-1.0
仙台	1.2	36.3	158.6	23	1.7	1.2	1.0
石巻	0.3	37.3	174.2		0.7	0.3	0.0
福島	1.2	46.2	145.5	46	1.5	1.2	1.0
白河	-0.1	30.3	167.7		0.3	-0.1	-0.3
小名浜	3.3	50.4	195.1	0	3.7	3.3	3.1

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはあります、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.8	74~111	95~107	84~107
東北日本海側	-0.4~+0.7	90~105	91~111	85~120
東北太平洋側	-0.5~+0.8	62~110	96~105	72~107

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.8~+0.8	-0.6~+0.9	-0.5~+0.7
東北日本海側	-0.8~+0.8	-0.6~+0.9	-0.5~+0.7
東北太平洋側	-0.8~+0.8	-0.6~+0.9	-0.6~+0.8

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年1月9日 仙台管区気象台

1. 実現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(1月10日~2月9日) :

冬型の気圧配置が続くでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(1月10日~1月16日) :

冬型の気圧配置が続き、東北日本海側では雪の日が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心におむね晴れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(1月17日~1月23日) :

冬型の気圧配置が続くでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(1月24日~2月6日) :

冬型の気圧配置が続くでしょう。平年と同様に、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。

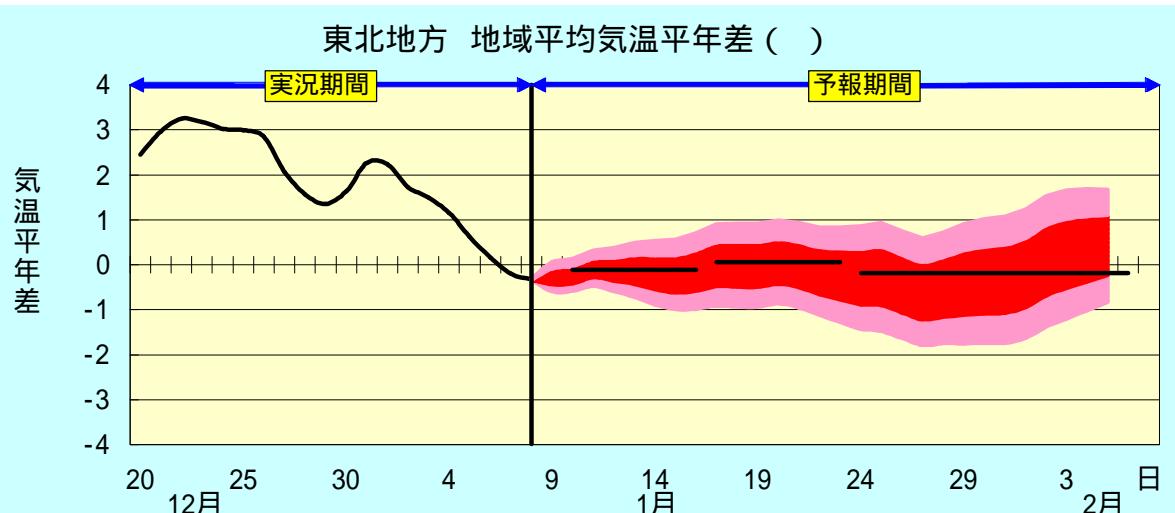
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	5.0日	1.2日	1.2日	2.6日
東北太平洋側	18.3日	4.5日	4.4日	9.4日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目ともに「平年並」と予測している。予報は、数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は大きい。



* 実況期間(図の左側)の太い実線: 東北地方地域平均気温平年差の実況値。(7日平均値)

* 予報期間(図の右側)には7日平均気温の予測に対する信頼の程度が40%の幅(濃い赤の範囲)

と信頼の程度が70%の幅(濃い赤と薄い赤の範囲)を表示

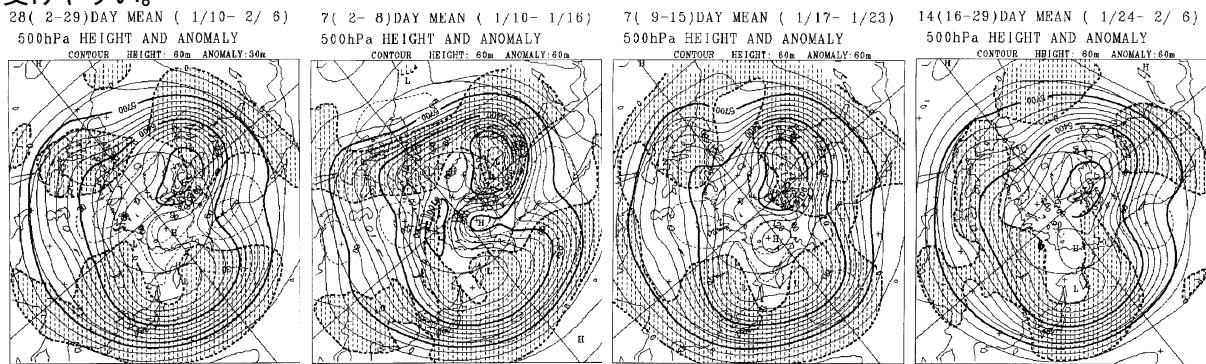
* 水平な3本の実線: 予報期間の1週目、2週目、3~4週目についての多数の平均。

3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、極付近にアラスカからの気圧の尾根が伸び、正偏差が広がる。一方、日本を含む極東中緯度は広く負偏差に覆われ、寒気が南下しやすい傾向となる。ベーリング海付近は負偏差で、アリューシャン低気圧は平年より強い。

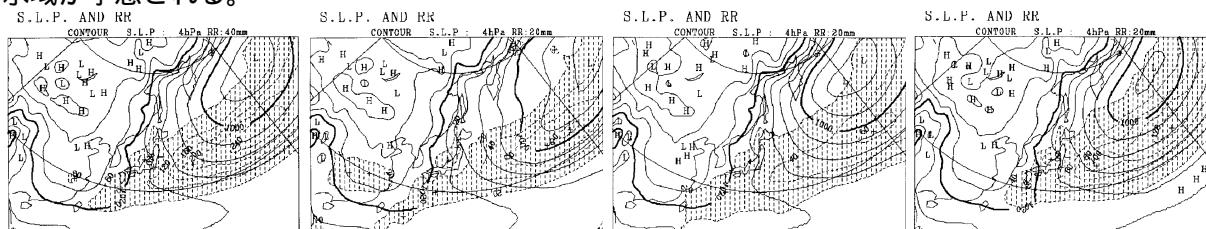
週別に見ると、1週目は日本付近負偏差で、寒気の影響を受けやすい。2週目は月平均と同様で、日本付近は広く負偏差に覆われる。寒冷低気圧がサハリン西付近まで南下し、日本の西が気圧の谷となる。3~4週目は大陸南部で正偏差が強まるが、日本付近負偏差で、引き続き寒気の影響を受けやすい。



地上気圧と降水量：

月平均では、北日本中心の冬型の気圧配置。降水域は、日本海側や日本の南東海上を中心に日本付近に広くかかる予想。

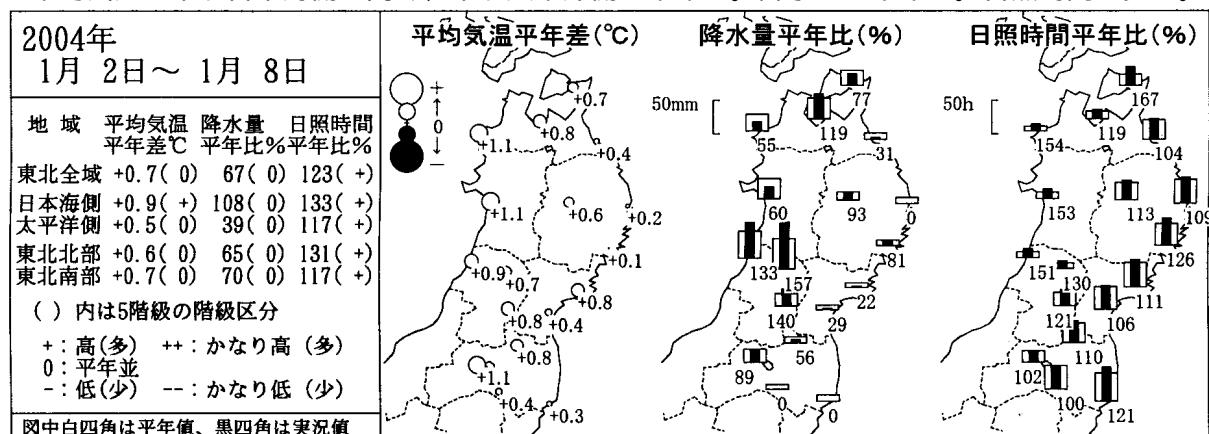
週別に見ると、1週目は平年と同様の冬型の気圧配置だが、2週目は冬型の気圧配置がやや緩む。3~4週目は再び冬型の気圧配置が強まり、月平均と同様に日本海側や日本の南東海上を中心に降水域が予想される。



4. 最近1週間（1月2日～1月8日）の天候の経過

2~3日にかけて東北地方を低気圧が通過し、雨または雪となった。低気圧の通過後は冬型の気圧配置が続き、東北日本海側では雪や雨、東北太平洋側では概ね晴れた。7日は移動性高気圧に覆われ東北地方は概ね晴れたが、7日夜の低気圧の通過後は一時強い寒気が南下して冬型の気圧配置が強まり、東北太平洋側でも雪となった。

平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。降水量は平年並。日照時間は多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)